

# ランナー vol.20

2019年6月 ↑HPIはこちらから



## 編集長 武藤の巻頭ご挨拶

だんだんと暑い日が増えてきて、もうすでに夏の気分です。体が暑さに慣れないうちに夏日が訪れてしまい、熱中症になってしまったなんてニュースを良く耳にします。これから梅雨に入るため暑さは少し和らぎますが、じめじめと湿度の高い日が増えますので、体調不良を起こしやすく、注意が必要です。

これから始まる梅雨の時期に私たちを魅了してやまない花というと、紫陽花が一番に思い浮かびます。毎年あじさい寺には多くの方が訪れています。紫陽花は雨に濡れる姿も風情があり、素敵ですね。紫陽花は日本が原産の花で、もともとは現在のような華やかさのあるセイヨウアジサイではなく、清楚さを感じるガクアジサイです。現在良く見かけるセイヨウアジサイは、ガクアジサイがヨーロッパで品種改良されたものになります。どちらにも違った美しさがあり、見ていると心が華やぎますね。紫陽花の学名は「ハイドラングア (Hydrangea)」といい、これはギリシア語で「水の器」を表します。由来は、育てるのに多量の水を必要とするからだそうです。てっきり梅雨の時期に多くの雨を浴びて、きれいに咲くからかと思ったのですが…。残念ながら違いました。



セイヨウアジサイ



ガクアジサイ

また、紫陽花は土壌によって咲かせる花の色を変えます。鉢植えで買ってきた紫陽花を地植えしたら花の色が変わった、なんて話もよく聞きます。しかし、土壌によって完全に色が変わるわけではなく、花が本来もっている遺伝子的色合いに、ほんの少し土壌の酸性度によって影響を受け、色を変えるようです。同じ場所に植えても、すべて同じ色にならず、様々な色の紫陽花が見れるのはこのおかげだったんですね。

梅雨が過ぎれば、季節はすっかり夏になります。色とりどりの紫陽花を愛でながら、じめじめとした梅雨を乗り越え、夏をむかえる準備をしていきましょう。

## 今月のおとも

初夏の候、皆様におかれましては益々のご清祥のこととお慶び申し上げます。平成最後入社となりました横山がランナーを書かせて頂きます。

初回の内容は東京オリンピックで話題に挙がりました、GAPについてです。GAP (Good Agricultural Practice) は農業生産工程管理や適性農業規範と訳される、農業版のISOのようなものです。国や地域ごとにGAPの基準が多少異なり、日本では主にJGAPが使われ、基準を満たした農場がJGAP認証を得られます。

農産物の区分は大きく分けて青果物、穀物、茶の3種類です。内容としては農場運営、食品安全、環境保全、労働安全、人権・福祉に関する細かな管理点があります。管理点には必須、重要、努力と分類された3段階の重みづけがあり、JGAPを取得しない場合でも安全な農場経営のための参考になると思います。またJGAP認証のロゴを袋等に印字することで、消費者や市場等の外部に安全性のアピールすることも出来ます。認証には約1~2年程度かかります。

さらに輸出を考えた場合には世界での基準としてGlobal-GAPを取得する必要があります。JGAP とGlobal-GAPの項目は基本的に同じですが、一部基準が異なります。特に日本では降水量が多いため、水に関する記述は水質が主ですが、世界では降水量の少ない地域もあるため、灌水量とその記録等の記述が増えています。

引用させて頂いたサイトからJGAP、Global-GAPの管理項目・基準を見ることが可能なので、この機会に一度見て頂けると幸いです。

引用：日本GAP協会、GAP普及推進機構



## 営業さんの温室紹介

### アートコーポレーション様 FCハウス新築工事

場所 → 岡山県岡山市  
 物件概要 → 間口10.0m × 奥行96.0m × 4連棟  
 軒高2.4m

本物件は、施主様である上西様のご子息である土井様が新規にブドウの栽培に携わるということで、長期展張が可能なエフクリーンハウスにて計画いたしました。

ハウスの引き渡しまでにはいくつかの苦労がありました。1つ目は、ハウス建設にあたって資材の置き場が限られていたことです。所有している土地に対して温室を一杯建てる計画だったため、鉄骨を納品するスペースが限られておりました。そのため、ハウス内に仮置きスペースを確保したり、搬入時期を調整するなどして対応いたしました。

2つ目は、短い工期で新設工事を行わなければならなかったことです。ブドウの苗が現場に納品される日にちが決まっていたため、工期が約3か月と急ピッチでの作業となりました。ブドウの苗を植える苗床の作成のためにハウス内を掘削する作業と弊社の工事範囲が工程上重なってしまうところが多々あり、職人の方や上西様との打合せを重ねました。

3つ目は、事前打ち合わせの内容から仕様変更があったことです。土井様が農業をされるのは初めてで、もちろん農業用ハウスを建設するのも初めてでした。実際に現場でも、土井様の思いを伺い、事前打ち合わせの内容から設置箇所の変更や機器関係の変更を行いました。

これらの苦労を乗り越え、本物件を建設し、上西様への引き渡しを行いました。土井様の思いに沿ったハウスを建設することができ、引き渡しを終えたときには達成感がありました。



## かわむーの千葉研究農場トマト便り

新緑がまぶしい季節となりました。沖縄では平年より7日遅い梅雨入りが発表され、関東では5月なのに真夏日になる日もありました。今年も暑くなりそうですね…。皆様水分補給を怠らず、体調の変化に十分気を配りましょう。

さて、今回は播種のお話です。昨年度の千葉研究農場では、トマトの苗を種苗会社から購入して二次育苗を行ってから本圃定植を行ってきました。しかし、より高糖度を目指せる品種や栽培方法を模索するため、今年度から自分たちで播種を実施しております。

千葉研究農場では、播種の際に72穴セルトレイを用いています。培地は一般的には配合培土が利用されていますが、千葉研究農場はロックウールを用いており、二次育苗でDトレイに移植する際の培土もロックウールです。一作を通してロックウールを使用しているのは、育苗期と本圃栽培期の培地が同じであることで、根元付近と根先付近の根の環境が同じになり、生育が安定するという知見からです。

培地をセルトレイに詰めた後、鎮圧板、または鎮圧ローラーでくぼみをつけます。このくぼみに種を入れ、覆土をします。覆土はパーミキュライトを使用しています。中でもホワイトパーミキュライトは、通常のものに比べて保水性と通気性、透水性、保肥力に優れており、夏場の発芽率が高くなるとされています。

覆土を行った後は、灌水を行います。灌水量は1トレイに対して1ℓがおおよその目安になります。この時の培地は、全体がしっかりと湿っている状態にします。灌水後は発芽室にトレイを移動させます。発芽の為に室温が28℃になるように設定し、暗黒状態にします。通常、2~3日で発芽しますが、最適な栽培管理をするために播種後、毎日朝昼夕に発芽の状況を確認します。もし放置しておくと、胚軸が伸び、もやしのようになります。こうなるとその後の生育が著しく悪化し、始めから徒長した苗になってしまいます。発芽が確認されたら、人工光閉鎖型苗生産装置に入庫し、一次育苗を開始します。



発芽室に入庫したトレイ



5月22日播種、5月24日の発芽状況



わたわたの土のお話

【土の微生物】

土の中にはたくさんの微生物が生息しており、土1gに100~1000万、農用土では100億以上に及ぶとも言われています。1gというと小指の先くらいの量ですが、その量だけで何万、何億の微生物がいると考え、土には膨大な数の生き物がいることがわかつています。「微生物」と言いますと、私は中学の頃に顕微鏡で見たミジンコやゾウリムシ、ミカヅキモなんかがいふかひますが、「肉眼では観察できない微小な生物の総称。」(広辞苑「微生物」より引用)ですので、カビなどの糸状菌や細菌なども含まれます。

土壌微生物は、細菌、放線菌、糸状菌、藻類、原生動物の大きく5つに分類されます。これらの中には、植物が作れない栄養素を作って土の中に蓄えたり、有害な栄養素を除去してくれる有益な微生物がいます。その反面、植物の根に寄生して病気を起こしたり、栄養素を奪ってしまう困った微生物もいます。通常これらは、お互いに影響し合うことで良い方も悪い方も多くなりすぎないバランスがとれ、病原菌だけが異常に発生するようなことはほとんどありません。しかし、何かのきっかけで土壌中の生き物がほとんどいなくなってしまうと、微生物の働きである「分解」が進まないだけでなく、他の拮抗生物のいない環境で最初に戻ってきた生物が病原菌であった場合など、思わぬ問題が発生する場合があります。

また、良くも悪くも作物栽培に関係ないかと思われた微生物が生息できなくなったことで、今までほとんど出ていなかった病害生物が発生したという事例を耳にしたことがあります。私達の気づかないところで、回り回って拮抗生物として作用していた、なんてこともあるそうなので、生き物の関係は複雑で、難しく、面白いけど、大変な注意が必要だと思いました。



すーみんの知ってほしい！養殖魚の話

ご当地養殖魚の第8弾！

今回は、地域特産としての養殖が増えつつある鮭(サケ)・鱒(マス)についてのお話です。「サーモン」と言えば、好きな寿司ネタランキングで必ず上がってくるであろう、年齢性別を問わない圧倒的な人気者ですね。最近では、選抜育種やバイオテクノロジーを用いた品種開発により、様々な〇〇サーモン/マスを耳にするようになってきました。

ここで！意外と知らない方も多い名称について解説します。よく、違う生物と思われたり、勘違いされがちなサーモン・サケ・トラウト・マス。気にしたことが無い方も、明日の話のネタに覚えていって下さい。

ずばり、川生まれ海育ちなのが鮭(Salmon)、生涯川で過ごすのが鱒(Trout)です。

じゃあ、スーパーでよく見るトラウトサーモンは？という、こちらはいわゆる商品名。ニジマスを手で養殖できるようにしたもの指して呼ばれます。また、アトランティックサーモンも養殖の鮭と思われがちですが、大西洋(Atlantic)とその流入河川で育った鮭のことで、こちらは天然も養殖もあります。



<https://www.maruha-nichiro.co.jp/salmon/zukan/sakana05.html>

ギンザケ



<https://www.maruha-nichiro.co.jp/salmon/zukan/sakana07.html>

ニジマス

現状、国内で流通するサーモン類の大半がノルウェーなどからの輸入に頼っていますが、国内でも各地域で志向を凝らしたブランド鮭鱒が誕生しています。また、陸上養殖事業や品種開発に乗り出す企業も出てきており、盛り上がりにも拍車がかかっています。ブランド鮭鱒を生んだ都道府県は18(私調べ)も！読者の皆様の地元にもあるかもしれません。ノルウェー産も良いですが、新鮮な国内産にも触れてみてください。

【参考】  
産経WEST(<https://www.sankei.com/west/news/170502/wst1705020043-n1.html>)  
全国養鱒振興協会(<http://www.zenmasu.com/introduce.html>)  
マルハニチロ株式会社；サーモンミュージアム(<https://www.maruha-nichiro.co.jp/salmon/>)

福くんの栽培お役立ちコーナー

6月~8月の予報

栽培ワンポイント

向こう3ヶ月の予報では、6月は例年に比べ暑い日が続きますが、7月以降は暑さが落ちつき例年通りの気温となります。降水量は6月は少なく、7月以降は例年より多い予報となっています。

気温上昇時、いかに植物の生育に良好な温度に制御するかが、夏季の栽培においての重要なポイントです。その際地上部だけではなく、吸収力の高い健康な根を維持するために地下部である根域温度も測定し、根を傷めないよう管理を行いましょう。

平均気温

地域	平均気温			
	6~8月	6月	7月	8月
北日本	ほぼ 平年並み	平年並みか 高い	ほぼ 平年並み	ほぼ 平年並み
	太平洋側	平年並み か多い	平年並み	平年並み か多い
東日本	ほぼ 平年並み	高い	ほぼ 平年並み	ほぼ 平年並み
	太平洋側	平年並み か多い	平年並み か少ない	平年並み か多い
西日本	ほぼ 平年並み	高い	ほぼ 平年並み	ほぼ 平年並み
	太平洋側	平年並み か多い	平年並み か少ない	平年並み か多い
沖縄・奄美	平年並みか 高い	ほぼ 平年並み	平年並みか 高い	平年並みか 高い

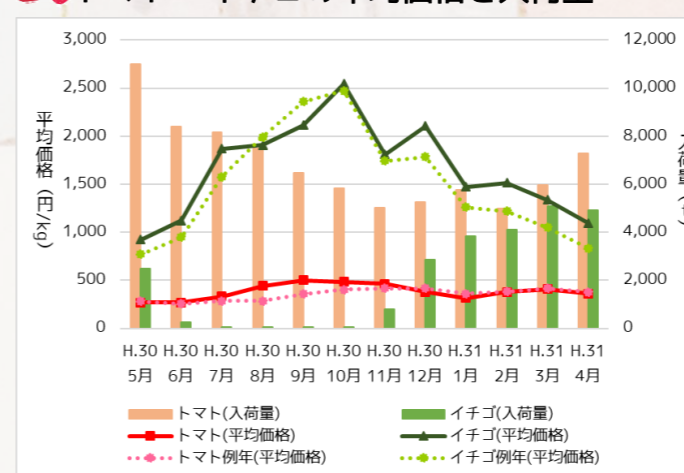
気象庁「3か月の平均気温・降水量」「月別の平均気温・降水量」を加工して作成

降水量

地域	降水量			
	6~8月	6月	7月	8月
北日本	平年並み か多い	ほぼ 平年並み	ほぼ 平年並み	平年並み か多い
	太平洋側	平年並み か多い	平年並み	平年並み か多い
東日本	平年並み か多い	平年並み か少ない	平年並み か多い	平年並み か多い
	太平洋側	平年並み か多い	平年並み か少ない	平年並み か多い
西日本	平年並み か多い	平年並み か少ない	平年並み か多い	平年並み か多い
	太平洋側	平年並み か多い	平年並み か少ない	平年並み か多い
沖縄・奄美	ほぼ 平年並み	平年並み か多い	ほぼ 平年並み	ほぼ 平年並み

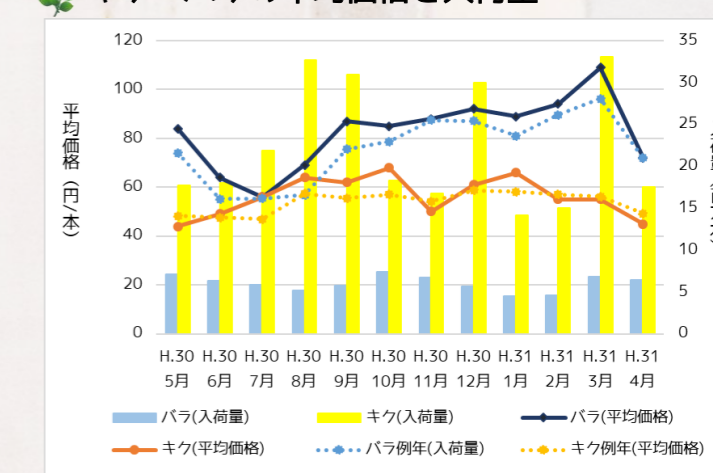
東京都中央卸売市場より、作成

トマト・イチゴの平均価格と入荷量



		例年4月	H.31 4月	例年比
トマト	入荷量 (t)	7,202,049	7,287,972	101%
	平均価格 (円)	378.5	360	95%
イチゴ	入荷量 (t)	3,048,551	4,911,937	161%
	平均価格 (円)	836.6	1096	131%

キク・バラの平均価格と入荷量



		例年4月	H.31 4月	例年比
バラ	入荷量 (t)	8,692,604	6,390,826	74%
	平均価格 (円)	71.8	72	100%
キク	入荷量 (t)	18,295,901	17,510,032	96%
	平均価格 (円)	49.3	45	91%

※例年平均価格は平成14年から平成30年までの価格

ランナー vol.20 2019年6月発行 掲載記事の無断転載を禁じます。

発行所 株式会社 大仙 営業事業部  
〒440-8521 愛知県豊橋市下地町字柳目8  
[TEL] 0532-54-6521 [FAX]0532-57-1751 [E-mail]mail.magazine@daisen.co.jp [登録]



※メールマガジン配信希望の方は、右のQRコードよりご登録いただくか、上記のE-mailアドレスより空メールの送信をお願いいたします。